

藤沢市
市民活動に関するアンケート調査

報告書（概要版）

2025 年（令和 7 年） 1 月

藤沢市

これは、令和 6 年度に実施した、「市民活動に関するアンケート調査」の概要報告書です。この結果は、藤沢市市民活動推進計画における市民活動促進の施策について、今後のあり方を検討する上で、貴重な資料として活用させていただきます。

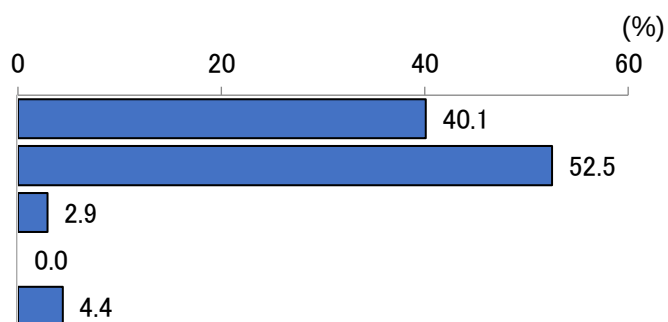
調査の概要		
調査の 設計	◆調査対象	市内に住所のある満 15 歳以上の市民
	◆対象者数	3,000 名
	◆標本抽出	無作為抽出
	◆調査方法	郵送配布、郵送回収またはウェブ回答方式
	◆調査期間	令和 6 年 10 月 28 日（月）～ 11 月 27 日（水）
	◆有効回収数	1,129 件（うち、郵送 593 件、ウェブ 536 件） ※調査期間終了後 12 月 6 日（金）までの回収分を含む。
	◆有効回収率	37.6 %
調査 項目	●地域活動について ●市民活動について ●ボランティア活動について ●寄付について ●その他	

※本文、図表中に使われる「n」は回答者数であり、グラフの数値はすべて回答者数を基数とした比率（%）です。少数第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。
複数回答では、%の合計が 100%を超える場合があります。

基本属性

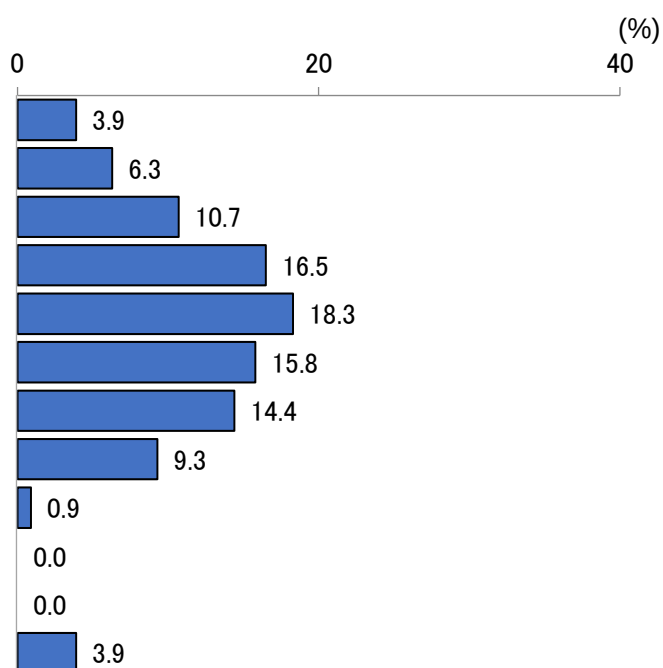
(1) 性別

	基数	構成比
男	453	40.1%
女	593	52.5%
回答しない	33	2.9%
不明	0	0.0%
無回答	50	4.4%
全 体	1,129	100.0%



(2) 年齢

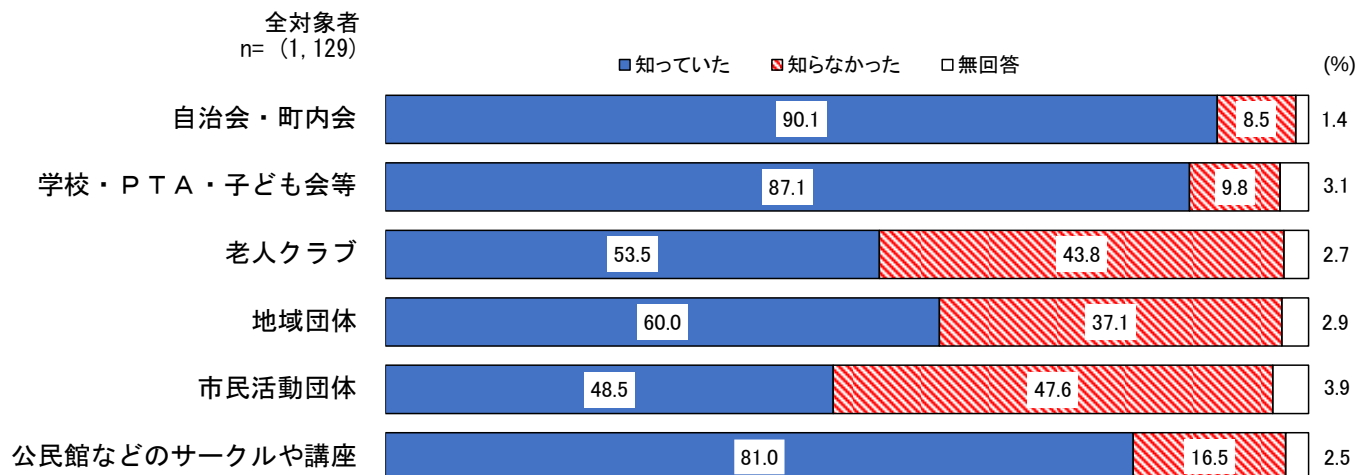
	基数	構成比
10歳代	44	3.9%
20歳代	71	6.3%
30歳代	121	10.7%
40歳代	186	16.5%
50歳代	207	18.3%
60歳代	178	15.8%
70歳代	163	14.4%
80歳代	105	9.3%
90歳代	10	0.9%
100歳以上	0	0.0%
不明	0	0.0%
無回答	44	3.9%
全体	1,129	100.0%



1 地域活動について

地域活動の周知状況

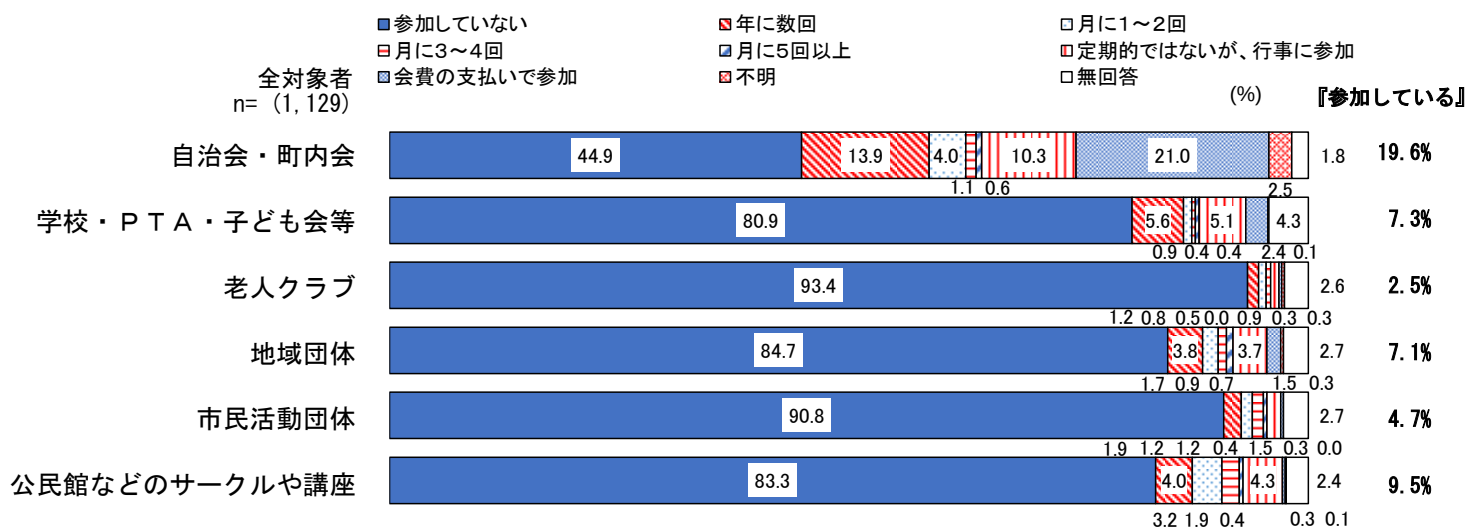
地域活動の周知状況について、「知っていた」割合は「自治会・町内会」が 90.1%と最も高く、次いで、「学校・PTA・子ども会等」(87.1%)、「公民館などのサークルや講座」(81.0%)の順となっています。一方、「市民活動団体」については 47.6%が「知らなかった」とし、「老人クラブ」(43.8%)、「地域団体」(37.1%)も、「知らなかった」が 4 割前後となっています。



地域活動への参加頻度

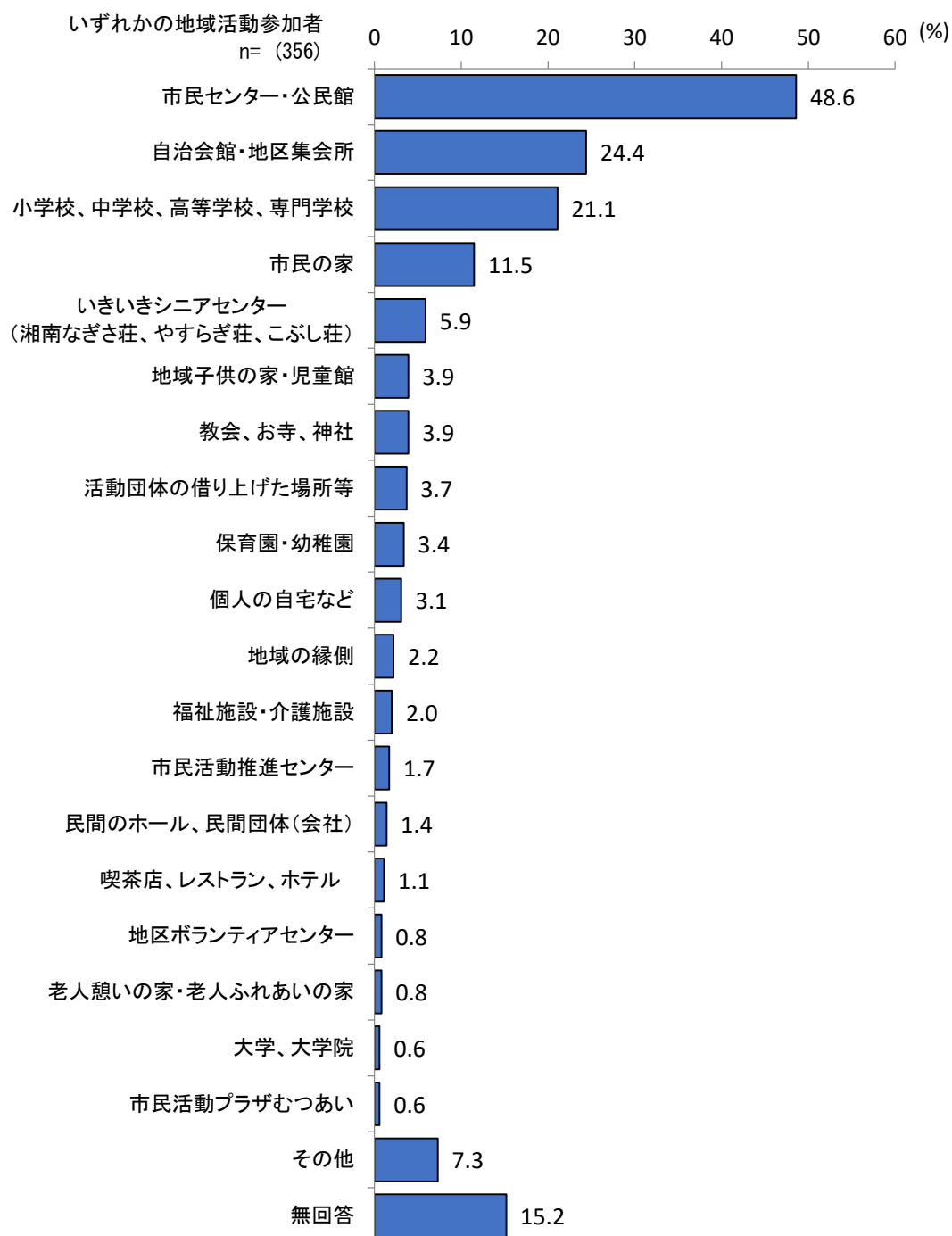
地域活動への参加状況について、「月に 5 回以上」「月に 3~4 回」「月に 1~2 回」「年に数回」を合わせた『参加している』層の割合は「自治会・町内会」が 19.6%で最も高いものの、「参加していない」は 4 割を超えています。

それ以外の活動について、『参加している』層の割合が最も高いのは「公民館などのサークルや講座」(9.5%)で、次いで「学校・PTA・子ども会等」(7.3%)、「地域団体」(7.1%)、「市民活動団体」(4.7%)、「老人クラブ」(2.5%)の順となっています。



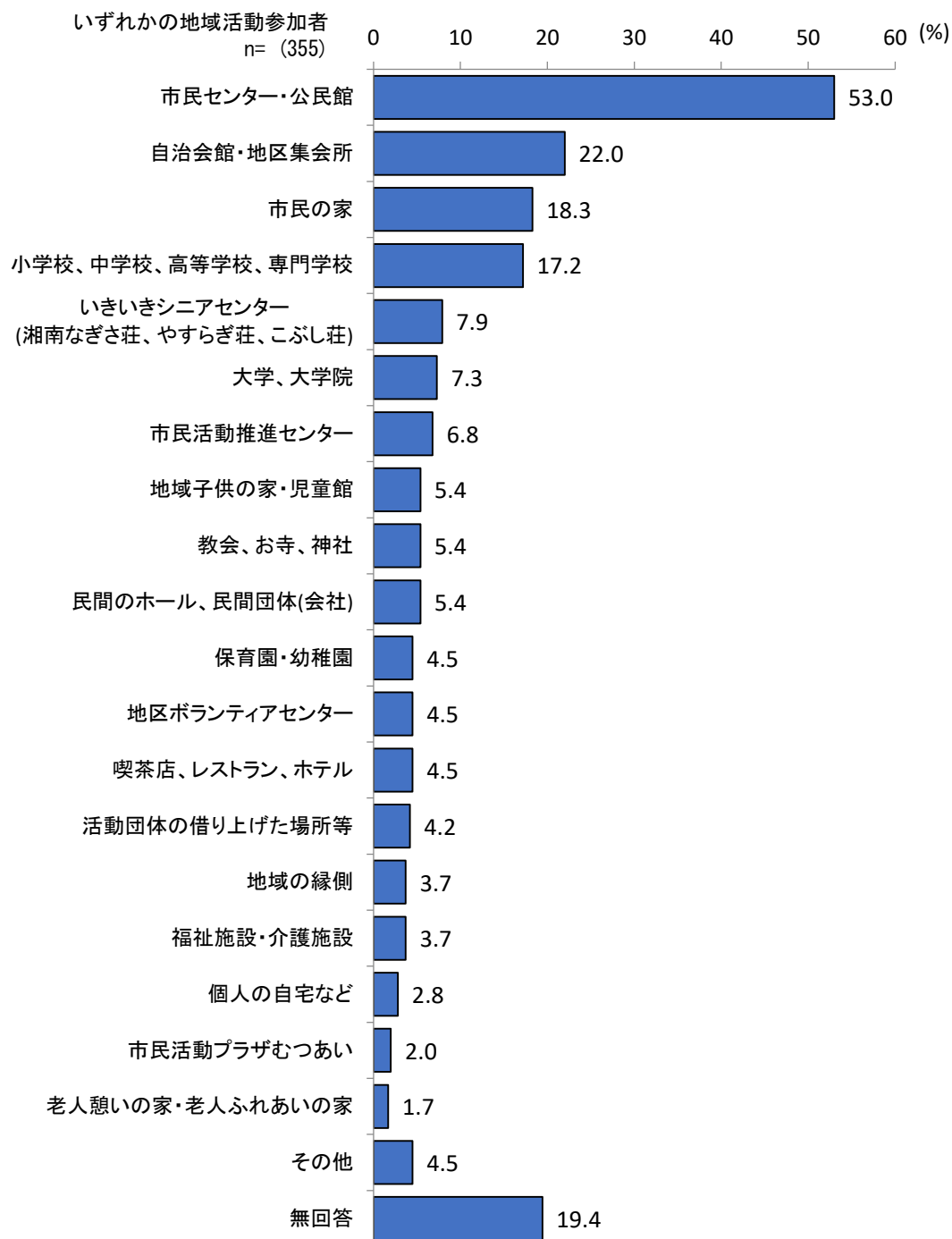
地域活動を行う場として利用している施設

地域活動を行う場としては「市民センター・公民館」を利用している割合が 48.6%と最も高く、次いで「自治会館・地区集会所」（24.4%）、「小学校、中学校、高等学校、専門学校」（21.1%）、「市民の家」（11.5%）の順となっています。



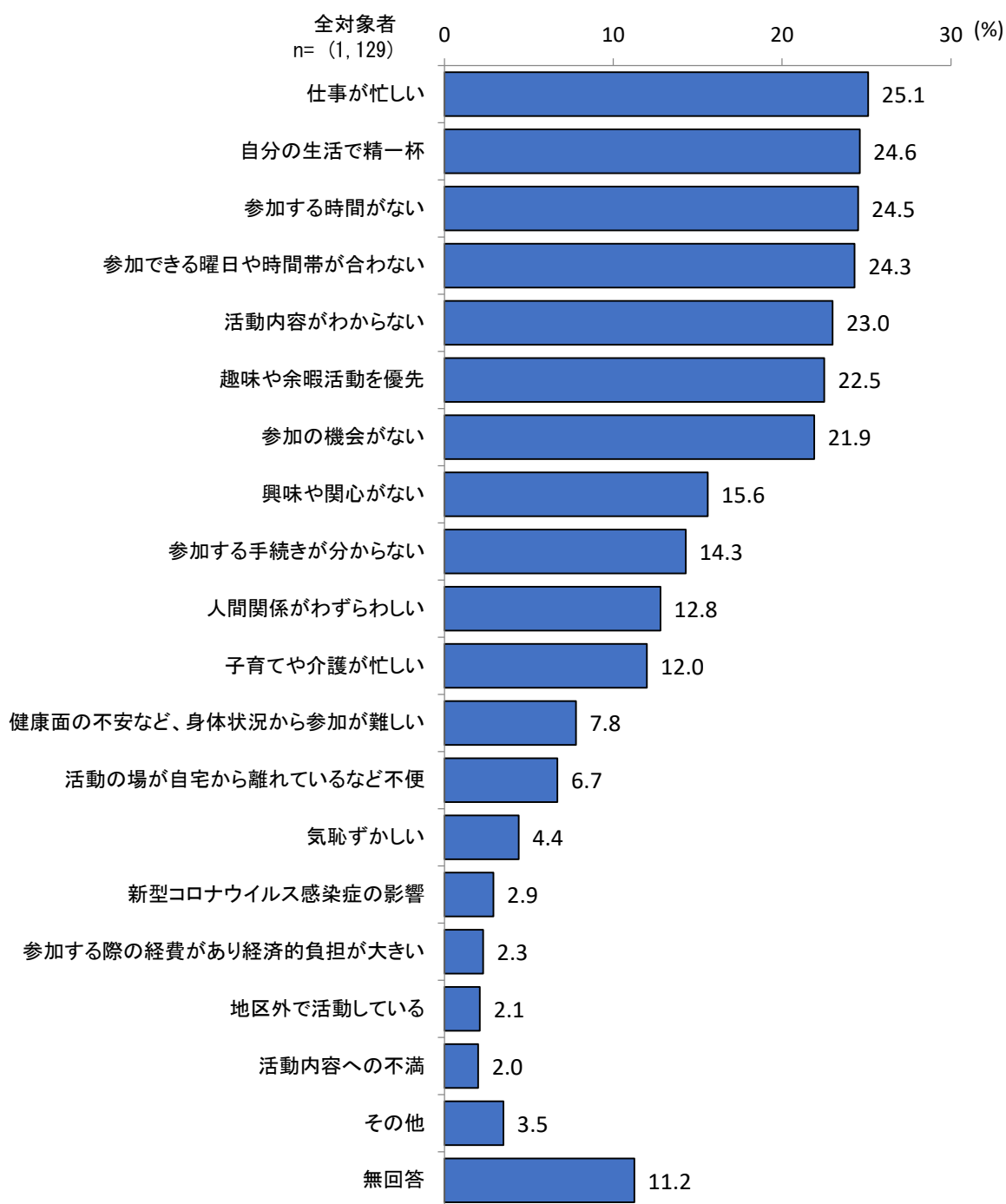
地域活動を行う場として今後利用したい施設

地域活動を行う場として今後利用したい施設については、「市民センター・公民館」を挙げる割合が53.0%と最も高く、次いで「自治会館・地区集会所」（22.0%）、「市民の家」（18.3%）、「小学校、中学校、高等学校、専門学校」（17.2%）の順となっています。



地域活動に参加することに妨げとなることや参加にあたっての不安

地域活動に参加することに妨げとなることや参加にあたっての不安については、「仕事が忙しい」が25.1%と最も高く、次いで、「自分の生活で精一杯」（24.6%）、「参加する時間がない」（24.5%）、「参加できる曜日や時間帯が合わない」（24.3%）、「活動内容がわからない」（23.0%）の順となっています。



2 市民活動について

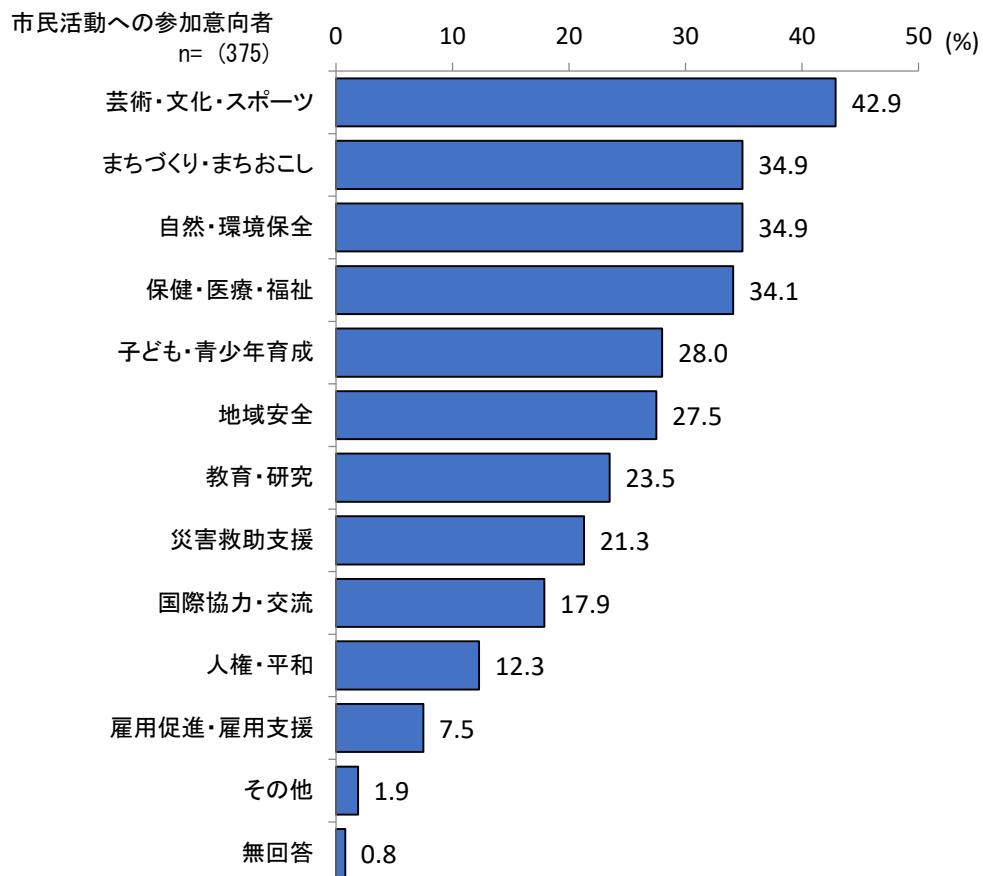
市民活動への参加意向

市民活動への参加意向については、「はい」が 32.1%、「いいえ」が 62.3%となっています。



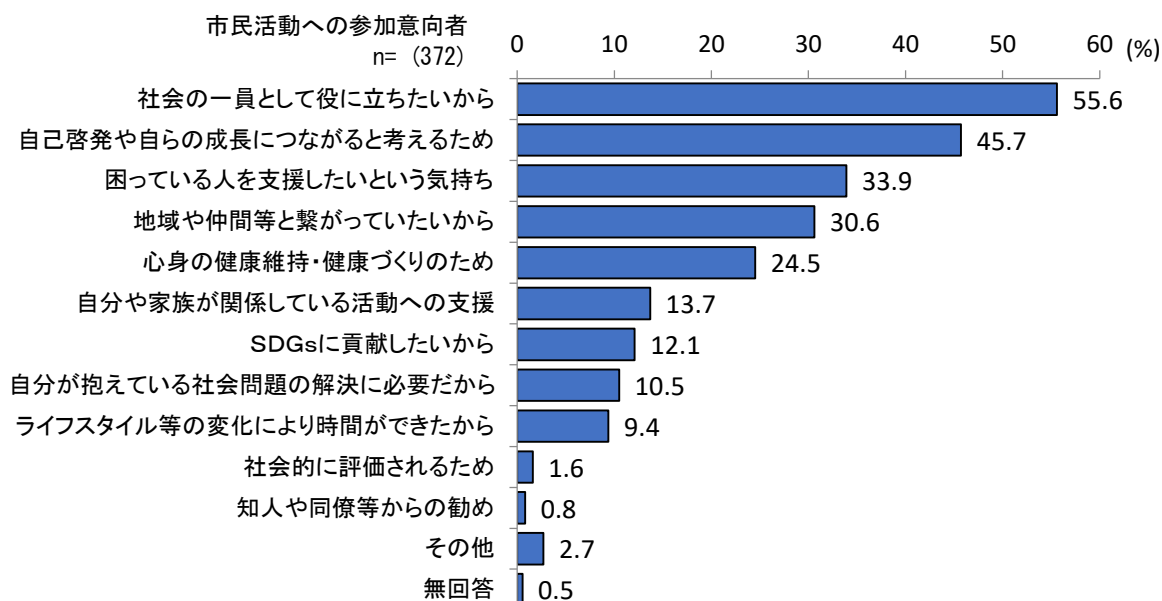
参加したい市民活動の分野

参加したい市民活動については、「芸術・文化・スポーツ」が 42.9%と最も高く、次いで、「まちづくり・まちおこし」(34.9%)、「自然・環境保全」(34.9%)、「保健・医療・福祉」(34.1%)、「子ども・青少年育成」(28.0%)の順となっています。



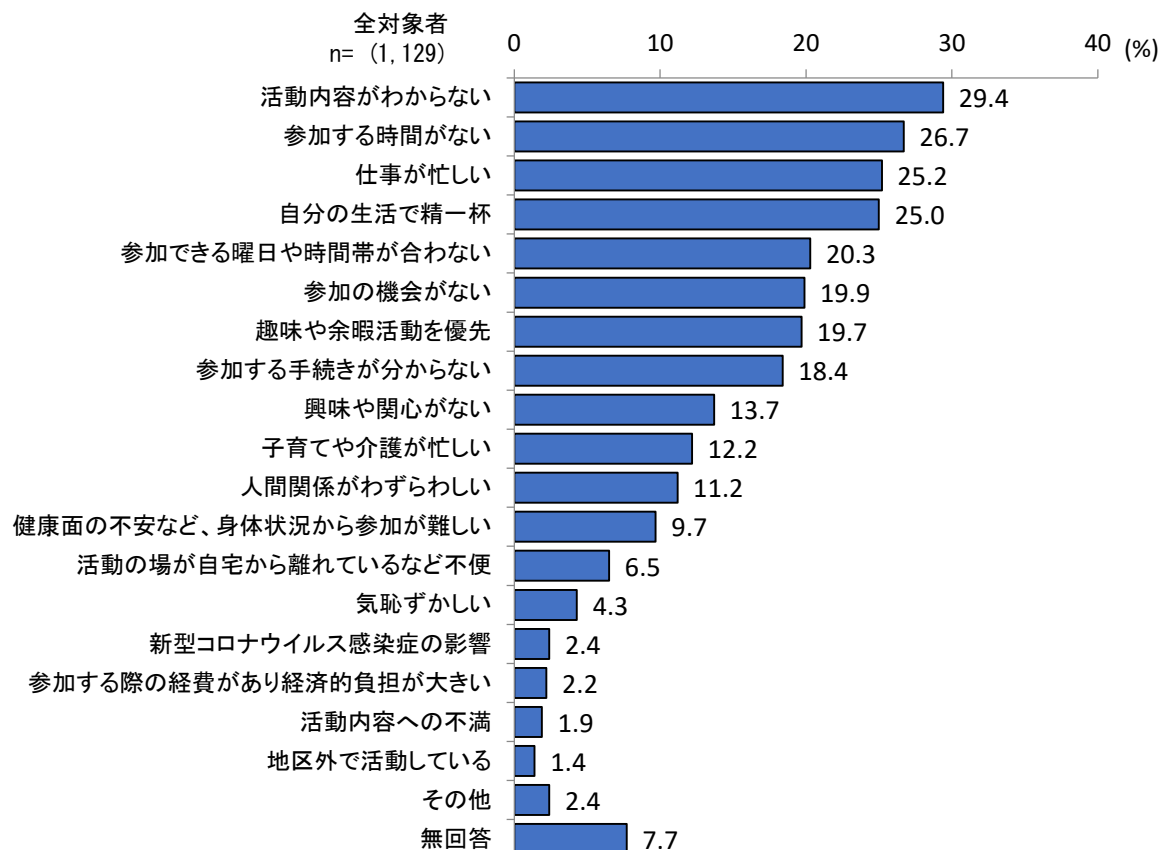
市民活動に参加したい理由

市民活動に参加したい理由については、「社会の一員として役に立ちたいから」が 55.6%と最も高く、次いで「自己啓発や自らの成長につながると考えるため」(45.7%)、「困っている人を支援したいという気持ち」(33.9%)、「地域や仲間等と繋がってみたいから」(30.6%)、「心身の健康維持・健康づくりのため」(24.5%)の順となっています。



市民活動に参加することに妨げとなることや参加にあたっての不安

市民活動に参加することに妨げとなることや参加にあたっての不安については、「活動内容がわからない」が 29.4%と最も高く、次いで、「参加する時間がない」(26.7%)、「仕事が忙しい」(25.2%)、「自分の生活で精一杯」(25.0%)、「参加できる曜日や時間帯が合わない」(20.3%)の順となっています。



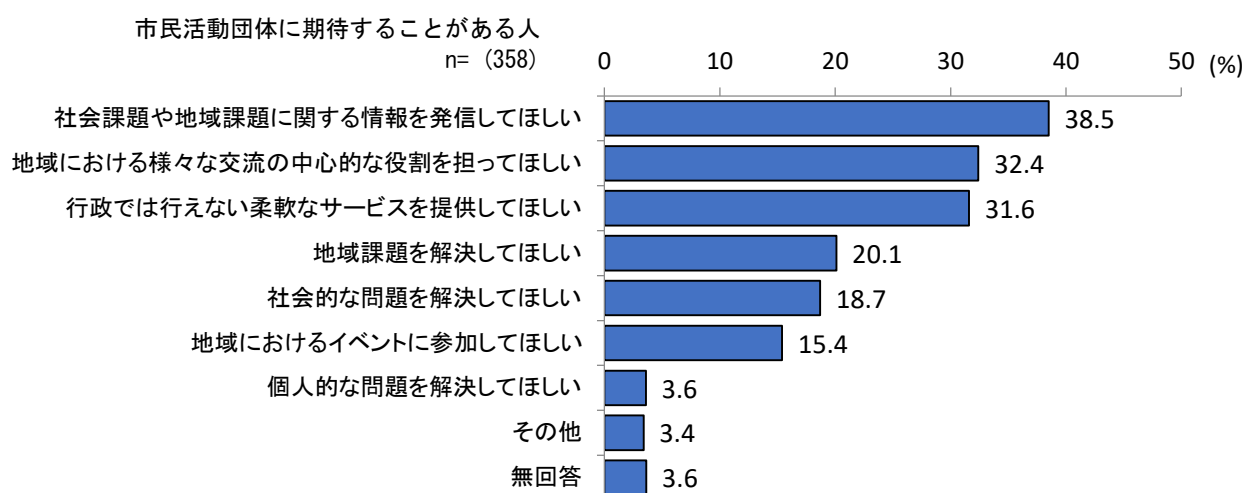
市民活動団体に期待することの有無

市民活動団体に期待することの有無については、「はい」が 30.8%、「いいえ」が 61.9%となっています。



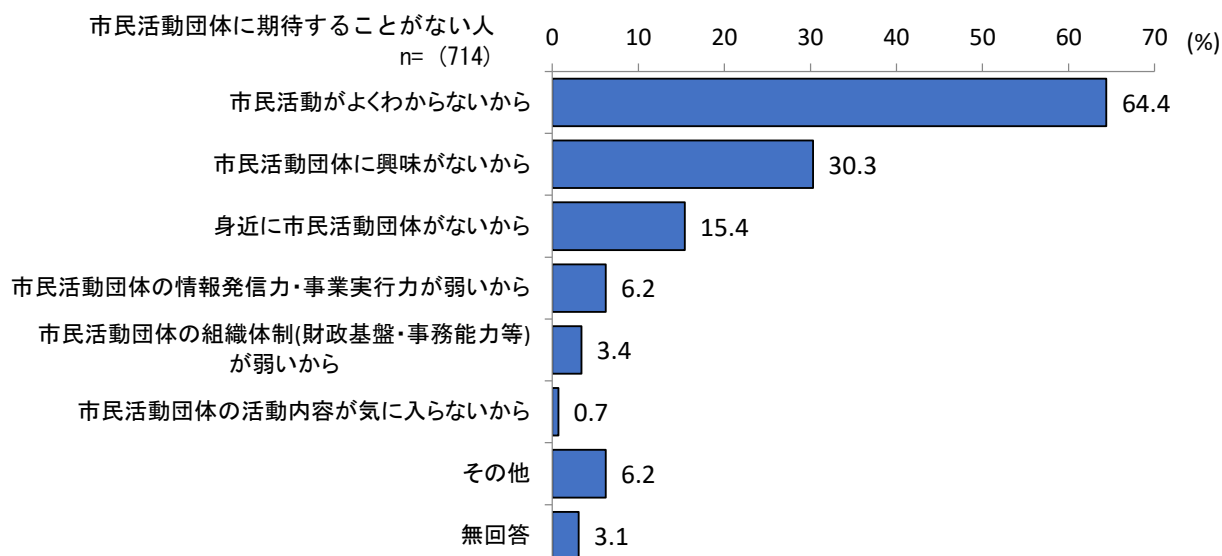
市民活動団体に期待することの内容

市民活動団体に期待することの内容については、「社会課題や地域課題に関する情報を発信してほしい」が 38.5%と最も高く、次いで、「地域における様々な交流の中心的な役割を担ってほしい」(32.4%)、「行政では行えない柔軟なサービスを提供してほしい」(31.6%)の順となっています。



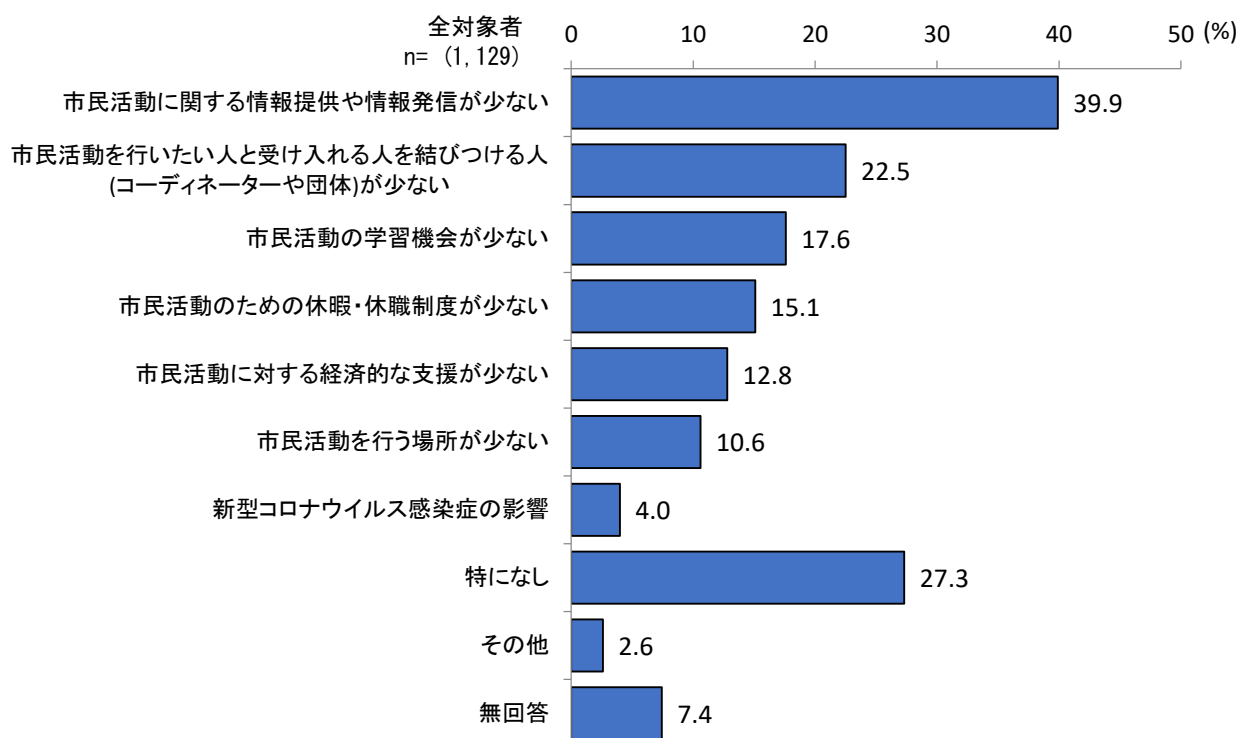
市民活動団体に期待することがない理由

市民活動団体に期待することがない理由については、「市民活動がよくわからないから」が 64.4%と最も高く、次いで、「市民活動団体に興味がないから」(30.3%)、「身近に市民活動団体がないから」(15.4%)の順となっています。



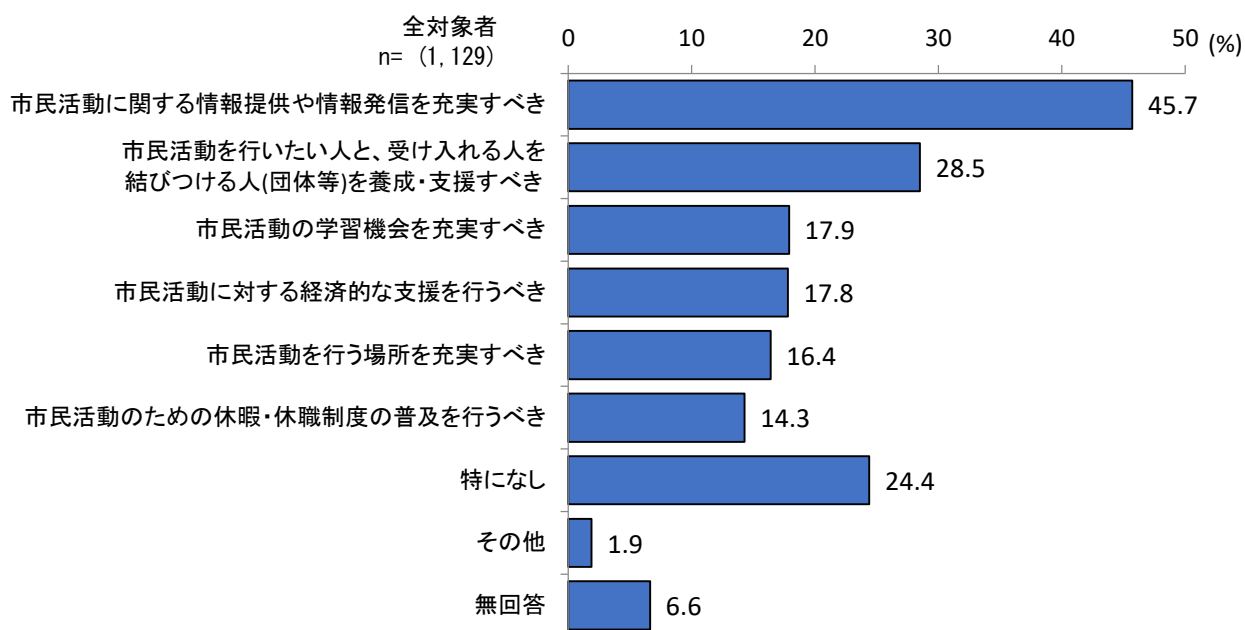
市民活動団体が活動するときに妨げになると思うこと

市民活動団体が活動するときに妨げになると思うことについては、「市民活動に関する情報提供や情報発信が少ない」が 39.9%と最も高く、次いで、「市民活動を行いたい人と受け入れる人を結びつける人（コーディネーターや団体）が少ない」（22.5%）、「市民活動の学習機会が少ない」（17.6%）の順となっています。



市民活動について市に望むこと

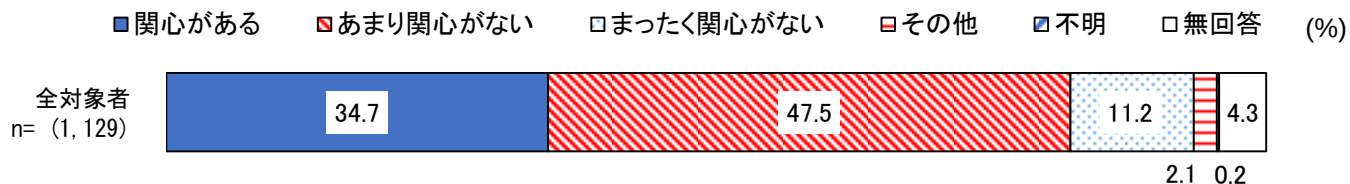
市民活動について市に望むこととしては、「市民活動に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が 45.7%と最も高く、次いで、「市民活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人（団体等）を養成・支援すべき」（28.5%）、「市民活動の学習機会を充実すべき」（17.9%）の順となっています。



3 ボランティア活動について

ボランティア活動への関心の有無

ボランティア活動への関心については、「関心がある」が 34.7%、「あまり関心がない」が 47.5%、「まったく関心がない」が 11.2%となっています。



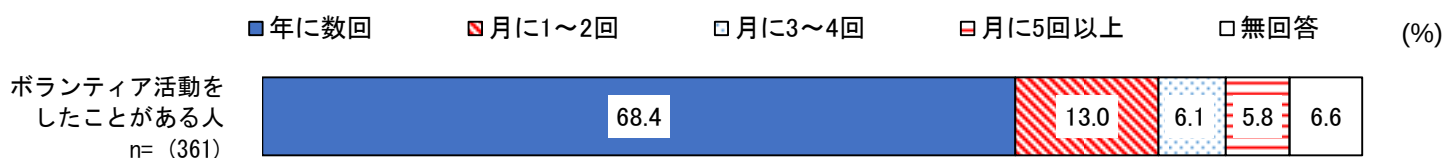
ボランティア活動の経験の有無

ボランティア活動の経験については、「したことがある」が 31.9%、「したことがない」が 64.7%となっています。



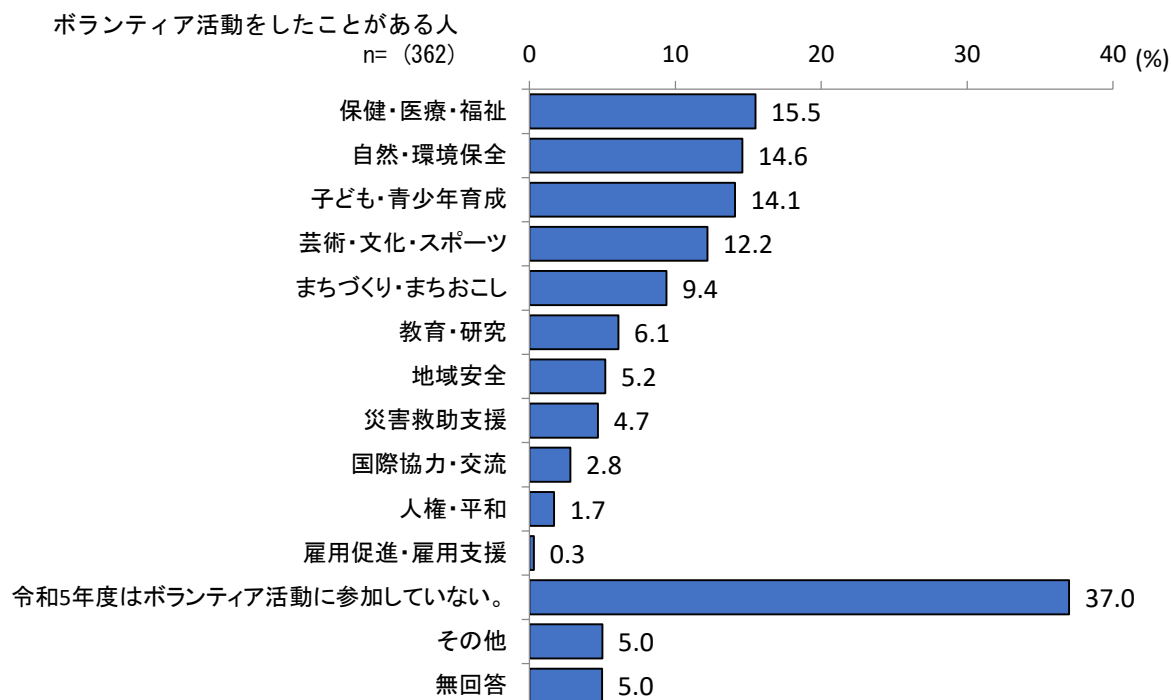
ボランティア活動への参加の頻度

ボランティア活動への参加の頻度については、「年に数回」が 68.4%と最も高く、「月に 1～2 回」が 13.0%、「月に 3～4 回」が 6.1%、「月に 5 回以上」が 5.8%となっています。



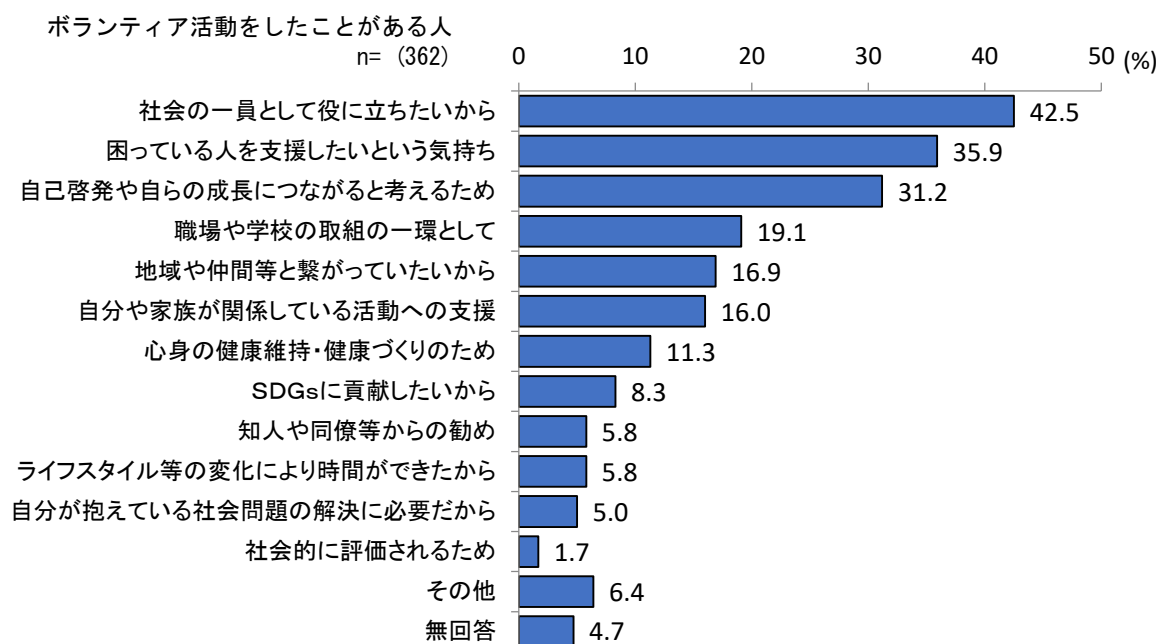
令和 5 年度中に参加したことがあるボランティア活動

令和 5 年度中に参加したことがあるボランティア活動については、「保健・医療・福祉」が 15.5%と最も高く、次いで、「自然・環境保全」（14.6%）、「子ども・青少年育成」（14.1%）、「芸術・文化・スポーツ」（12.2%）、「まちづくり・まちおこし」（9.4%）の順となっています。なお、「令和 5 年度はボランティア活動に参加していない」人は 37.0%となっています。



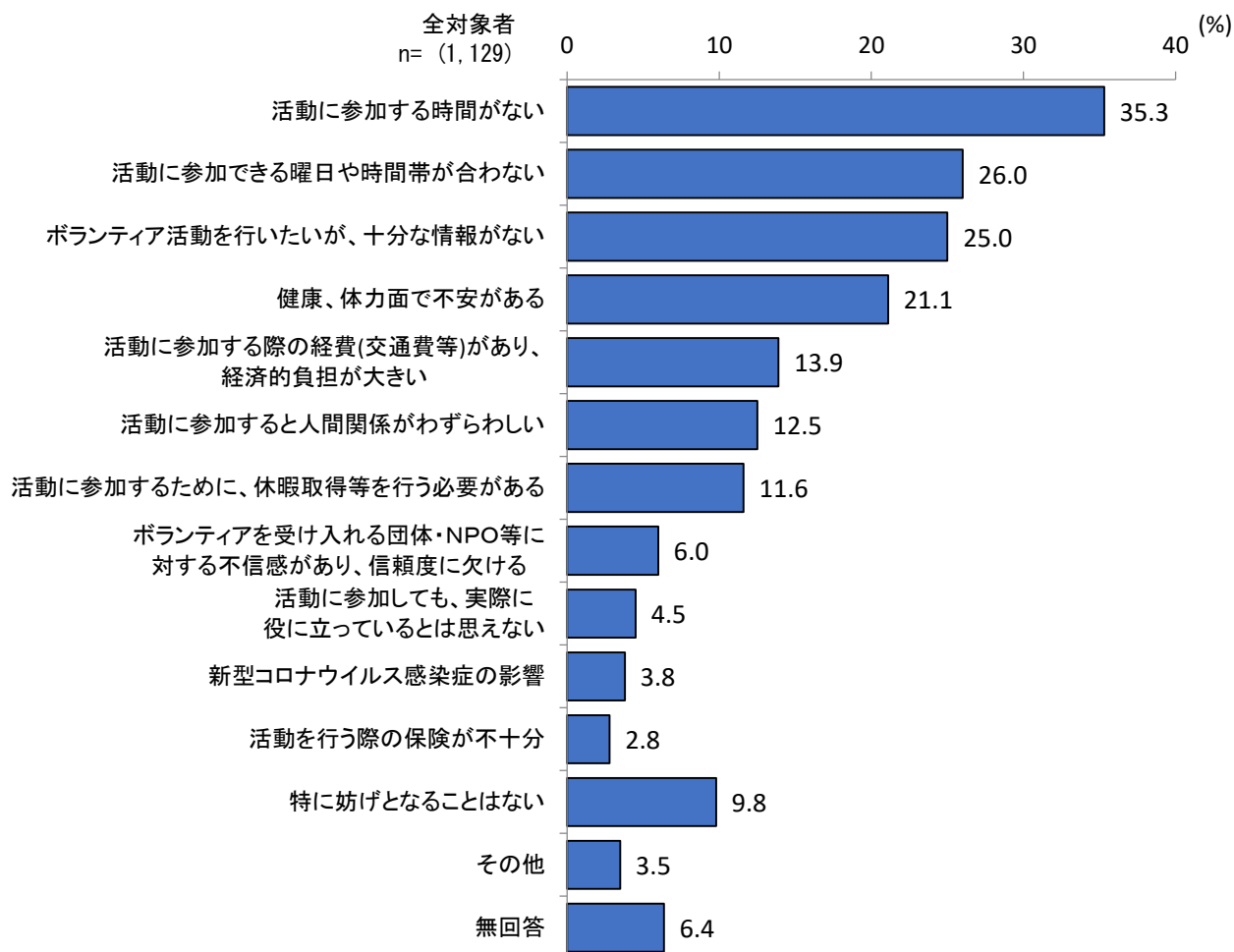
ボランティア活動に参加する理由

ボランティア活動に参加する理由については、「社会の一員として役に立ちたいから」が 42.5%と最も高く、次いで、「困っている人を支援したいという気持ち」（35.9%）、「自己啓発や自らの成長につながると思うため」（31.2%）の順となっています。



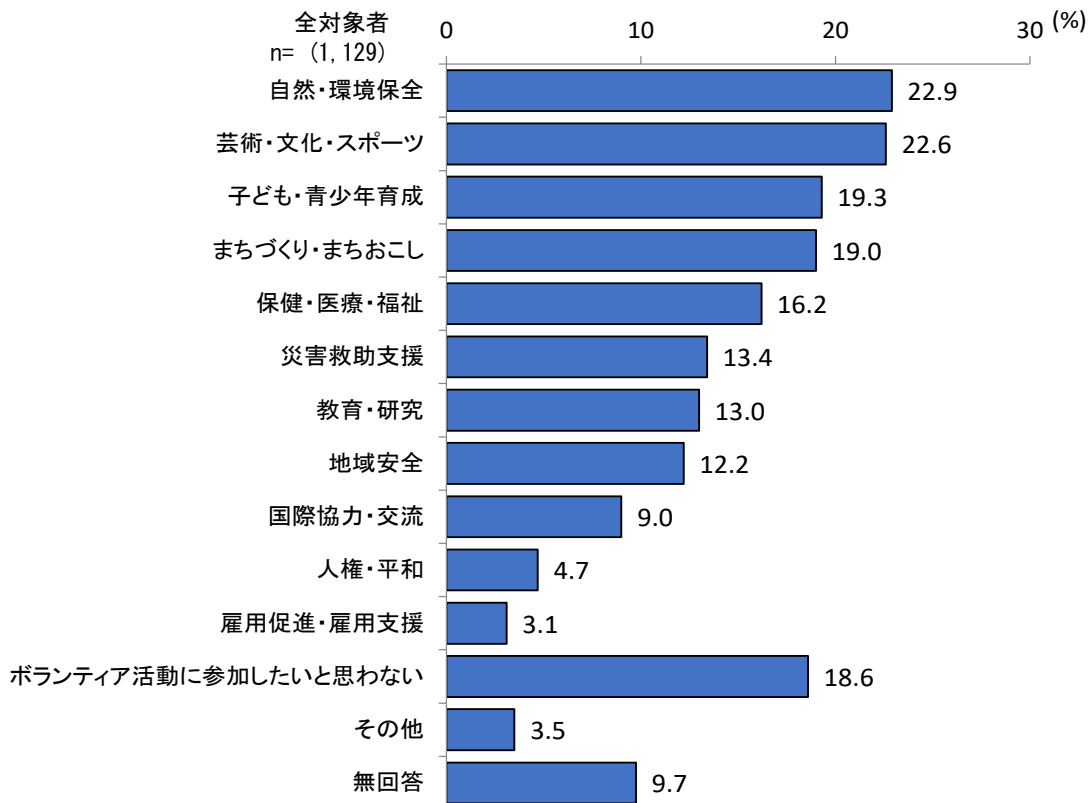
ボランティア活動に参加することに妨げとなることや参加にあたっての不安

ボランティア活動に参加することに妨げとなることや参加にあたっての不安については、「活動に参加する時間がない」が 35.3%と最も高く、次いで、「活動に参加できる曜日や時間帯が合わない」（26.0%）、「ボランティア活動を行いたい、十分な情報がない」（25.0%）の順となっています。



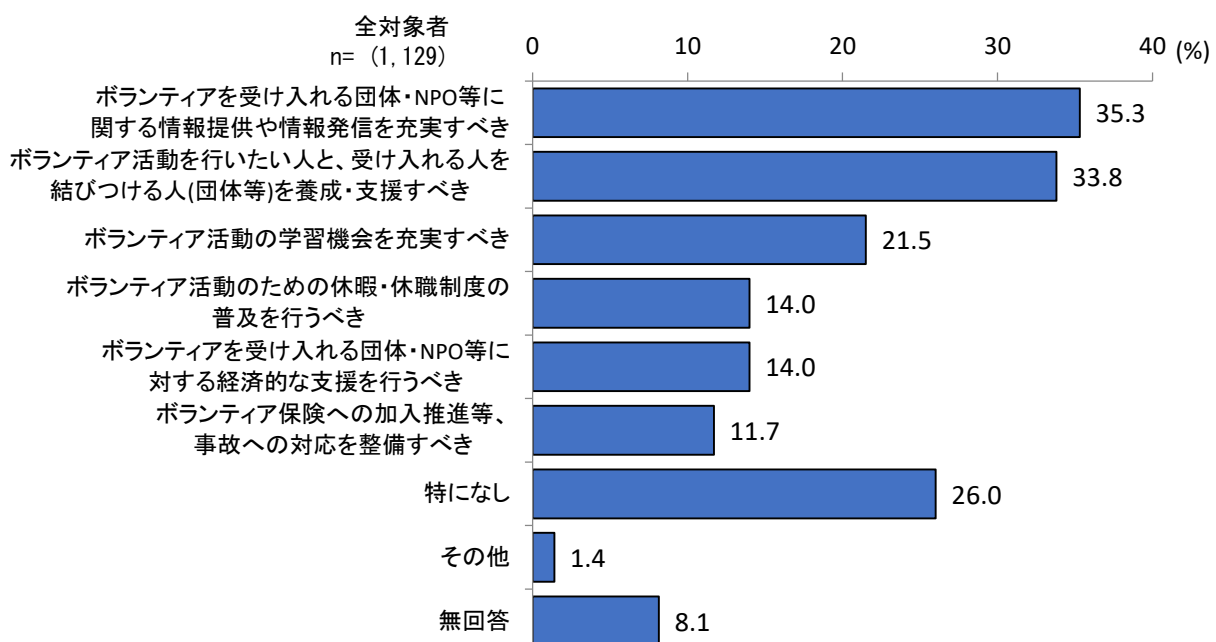
今後参加したいボランティア活動の分野

今後参加したいボランティア活動については、「自然・環境保全」が 22.9%と最も高く、次いで「芸術・文化・スポーツ」（22.6%）、「子ども・青少年育成」（19.3%）、「まちづくり・まちおこし」（19.0%）、「保健・医療・福祉」（16.2%）の順となっています。



ボランティア活動について市に望むこと

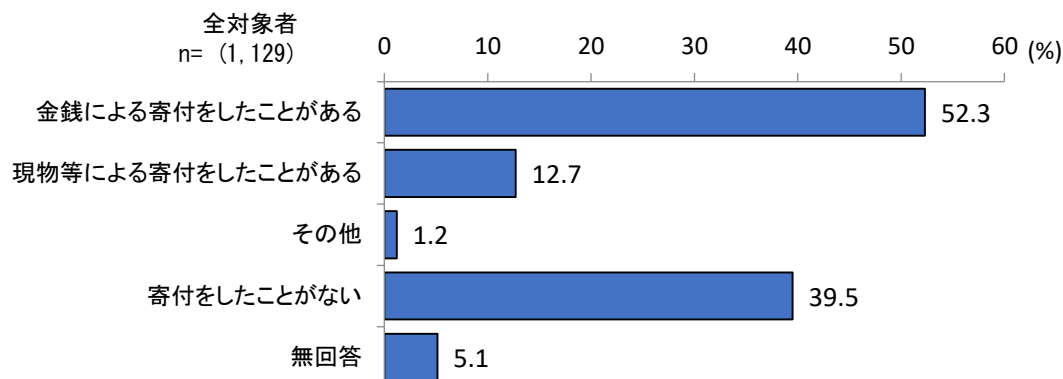
ボランティア活動について市に望むこととしては、「ボランティアを受け入れる団体・NPO 等に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が 35.3%と最も高く、次いで、「ボランティア活動を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人（団体等）を養成・支援すべき」（33.8%）、「ボランティア活動の学習機会を充実すべき」（21.5%）の順となっています。



4 寄付について

寄付経験の有無

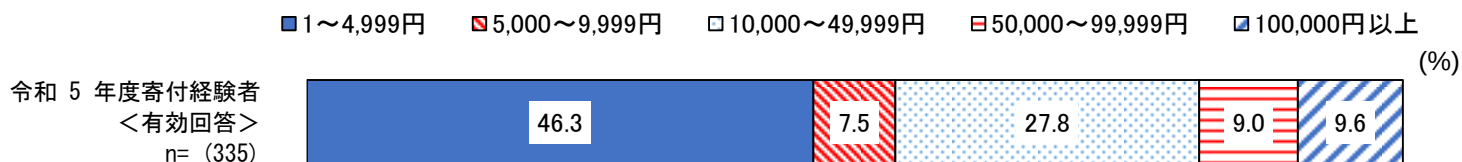
寄付経験については、「金銭による寄付をしたことがある」が 52.3%、「現物等による寄付をしたことがある」が 12.7%である一方、「寄付をしたことがない」人は 39.5%となっています。



令和 5 年度に寄付した金額、回数、現物等を寄付した回数

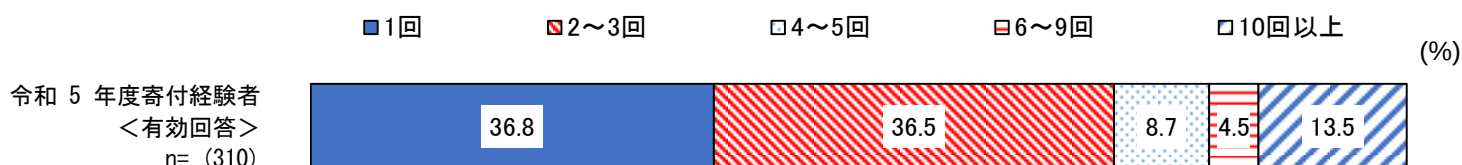
<年間寄付金額（個人）>

年間の寄付金額は、「1～4,999 円」が 46.3%と最も高く、次いで「10,000～49,999 円」（27.8%）、「100,000 円以上」（9.6%）、「50,000～99,999 円」（9.0%）、「5,000～9,999 円」（7.5%）となっています。



<年間金銭寄付回数>

年間金銭寄付回数については、「1 回」が 36.8%と最も高く、次いで「2～3 回」（36.5%）、「10 回以上」（13.5%）、「4～5 回」（8.7%）、「6～9 回」（4.5%）となっています。



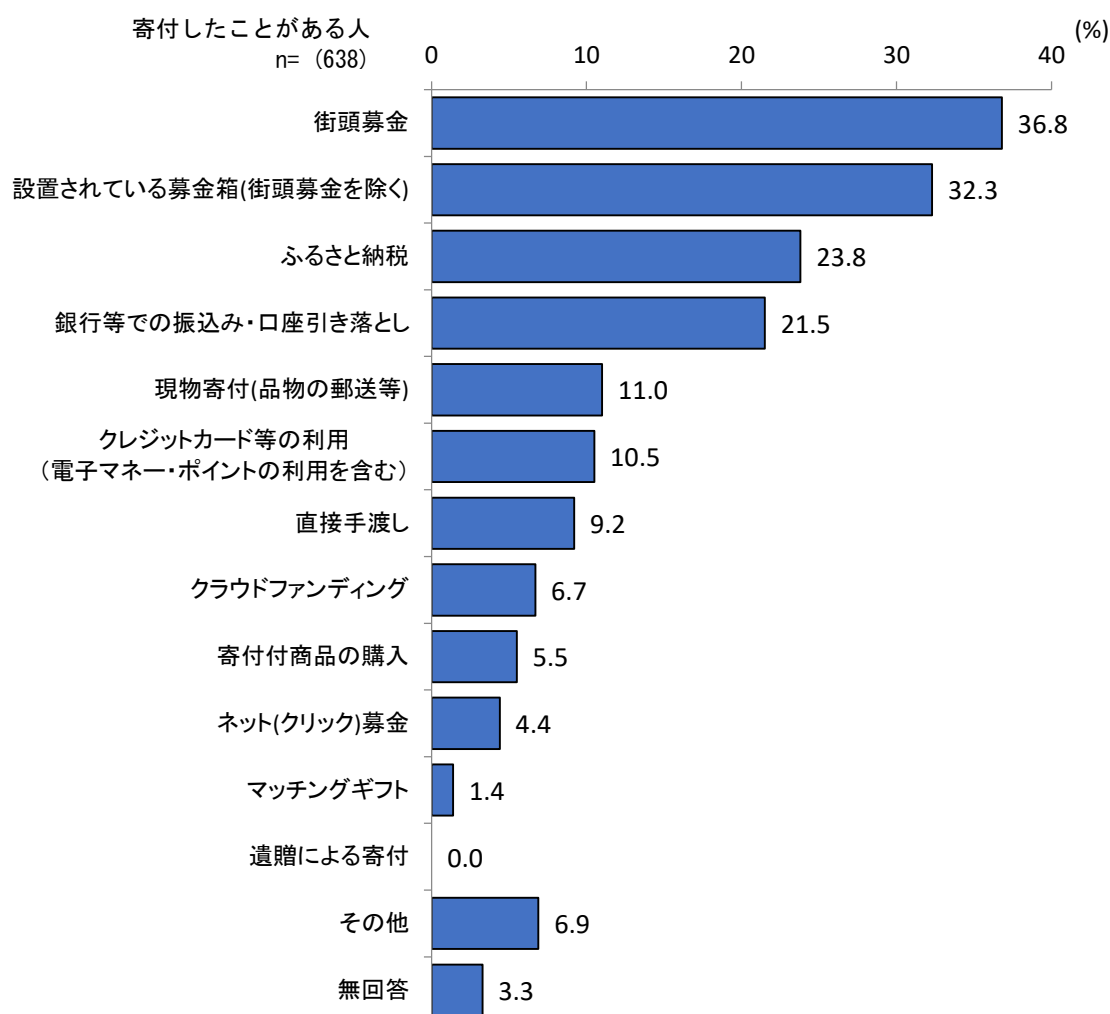
＜年間現物等寄付回数＞

年間現物等寄付回数については、「1 回」が 52.9%と最も高く、次いで「2～3 回」（35.7%）、「4～5 回」（8.6%）、「10 回以上」（2.9%）、「6～9 回」（0.0%）となっています。



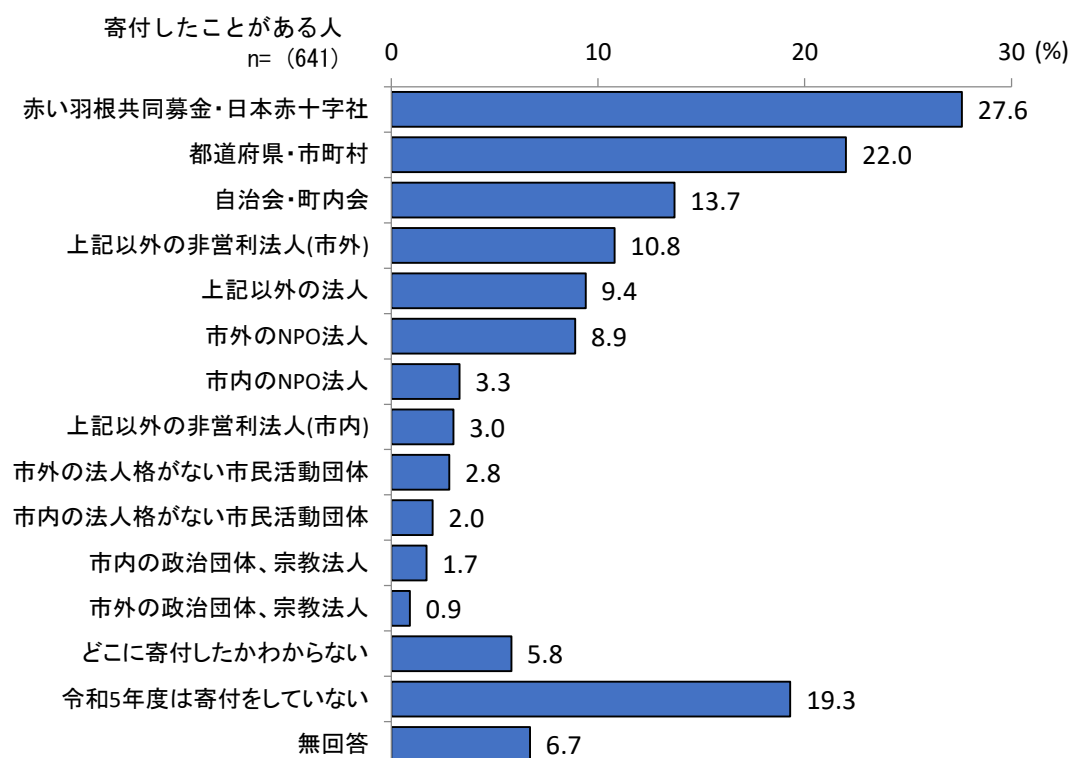
寄付を行った方法

寄付を行った方法については、「街頭募金」が 36.8%と最も高く、次いで、「設置されている募金箱（街頭募金を除く）」（32.3%）、「ふるさと納税」（23.8%）の順となっています。



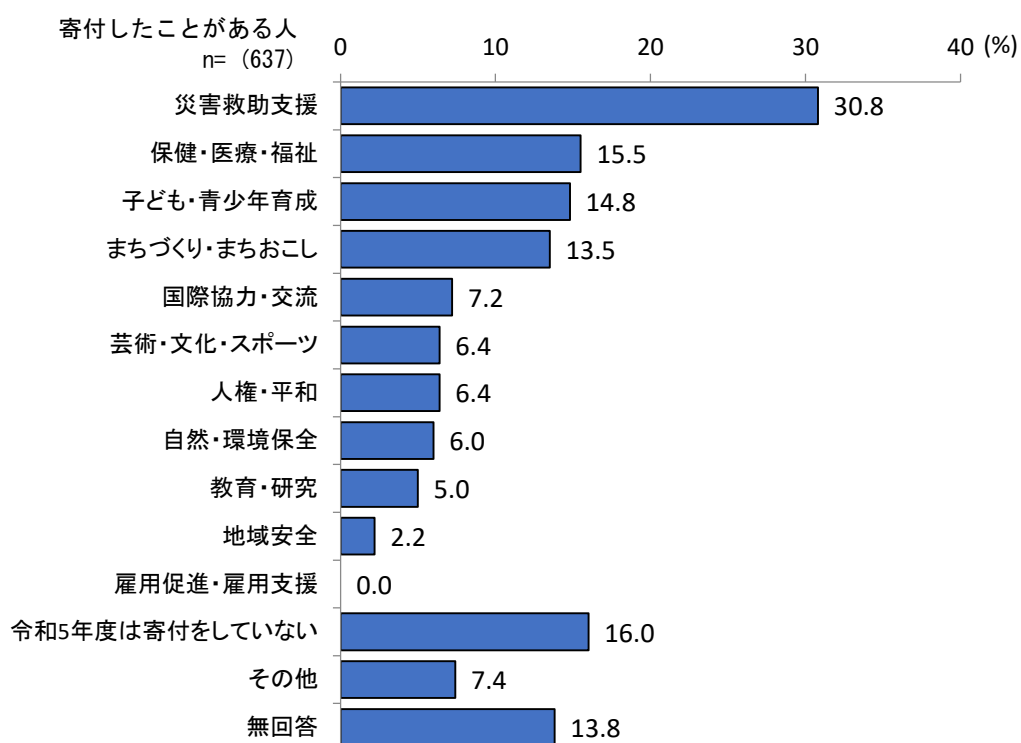
令和 5 年度に寄付をした団体

令和 5 年度に寄付をした団体については、「赤い羽根共同募金・日本赤十字社」が 27.6%と最も高く、次いで、「都道府県・市町村」（22.0%）、「自治会・町内会」（13.7%）の順となっています。



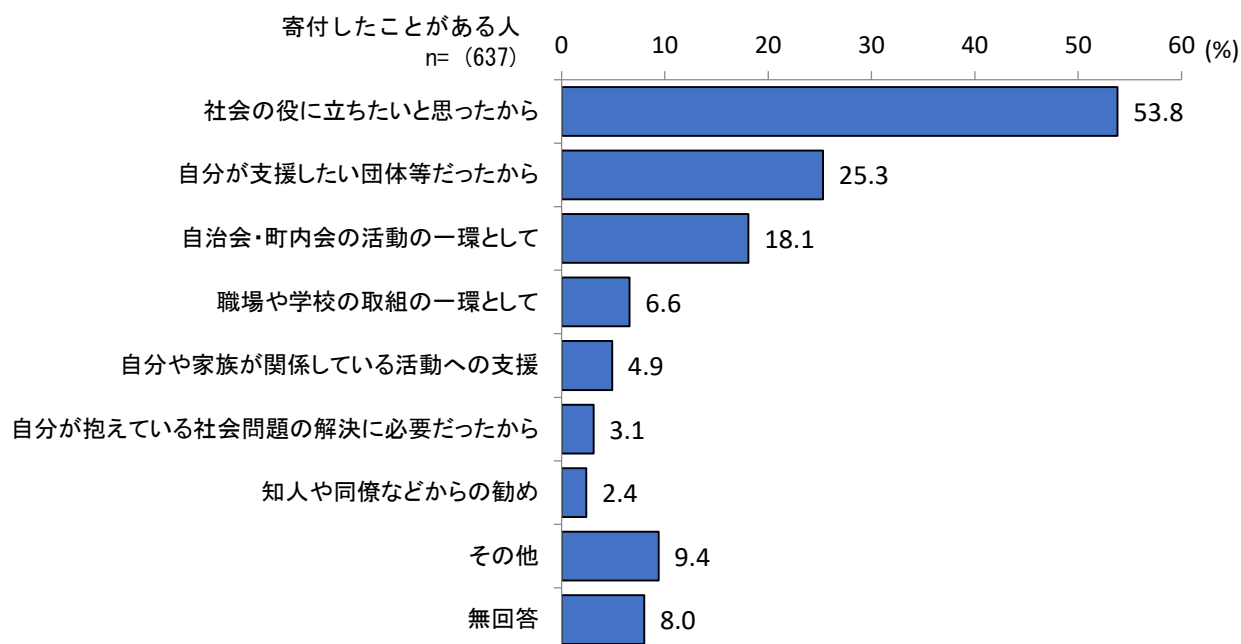
令和 5 年度に寄付をした分野

令和 5 年度に寄付をした分野については、「災害救助支援」が 30.8%と最も高く、次いで、「保健・医療・福祉」（15.5%）、「子ども・青少年育成」（14.8%）、「まちづくり・まちおこし」（13.5%）の順となっています。



寄付をした理由

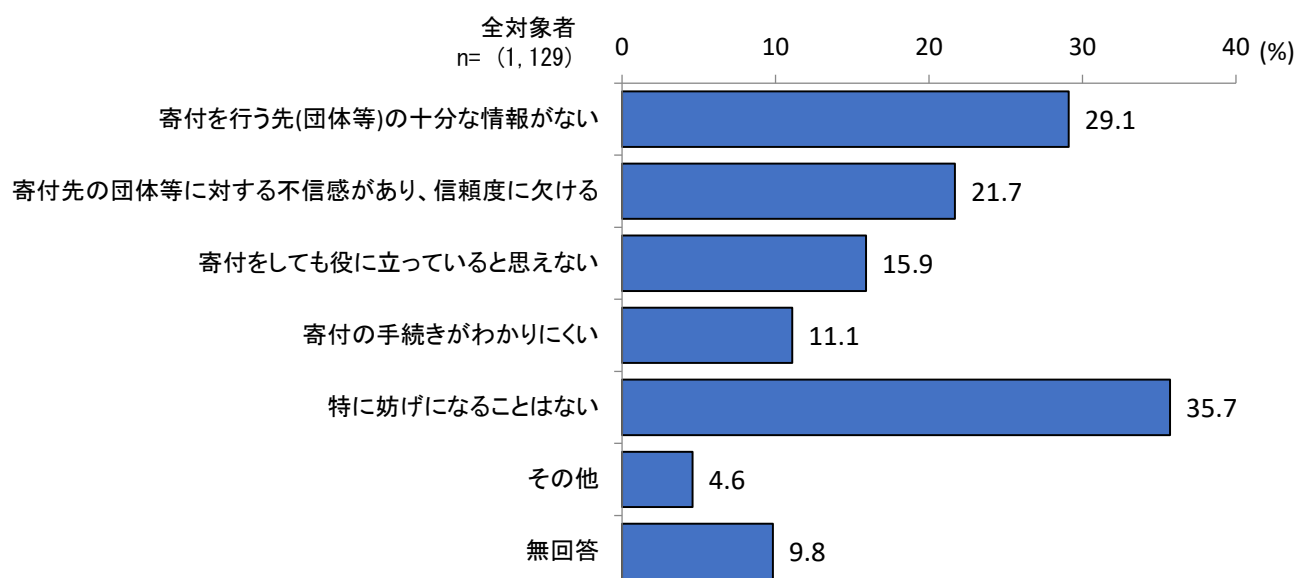
寄付をした理由については、「社会の役に立ちたいと思ったから」が 53.8%と最も高く、次いで、「自分が支援したい団体等だったから」（25.3%）、「自治会・町内会の活動の一環として」（18.1%）の順となっています。



寄付をするにあたり妨げとなること

寄付をするにあたり妨げとなることについては、「寄付を行う先（団体等）の十分な情報がない」が 29.1%、次いで「寄付先の団体等に対する不信感があり、信頼度に欠ける」（21.7%）、「寄付をしても役に立っていると思えない」（15.9%）、「寄付の手続きがわかりにくい」（11.1%）の順となっています。

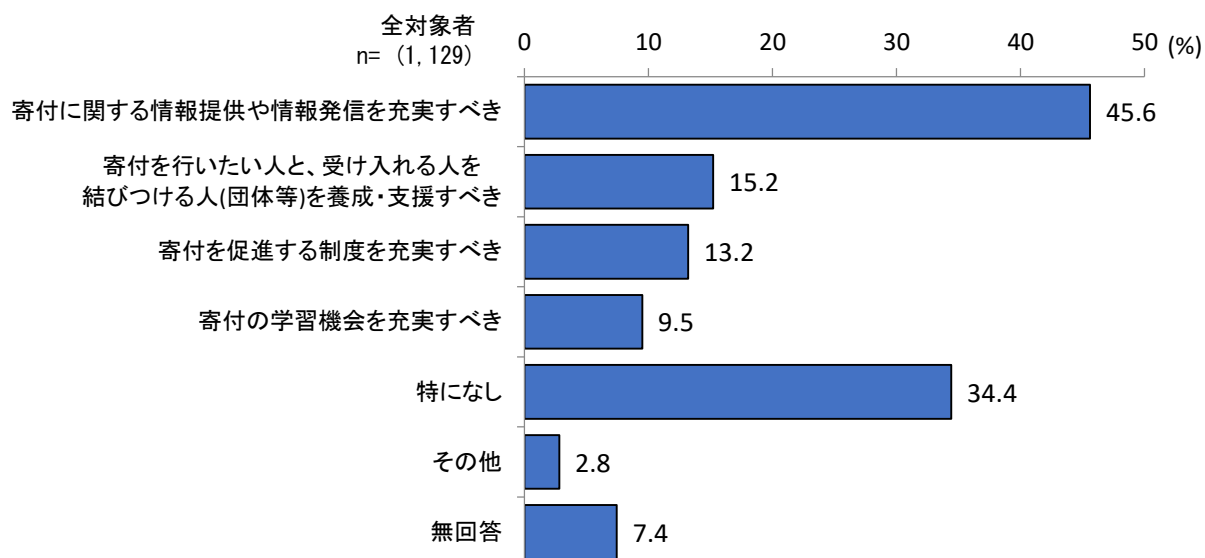
なお、「特に妨げになることはない」と回答した人は 35.7%となっています。



寄付促進のため市に望むこと

寄付促進のため市に望むことについては、「寄付に関する情報提供や情報発信を充実すべき」が 45.6%と最も高く、次いで「寄付を行いたい人と、受け入れる人を結びつける人（団体等）を養成・支援すべき」（15.2%）、「寄付を促進する制度を充実すべき」（13.2%）、「寄付の学習機会を充実すべき」（9.5%）の順となっています。

なお、「特になし」と回答した人は 34.4%となっています。

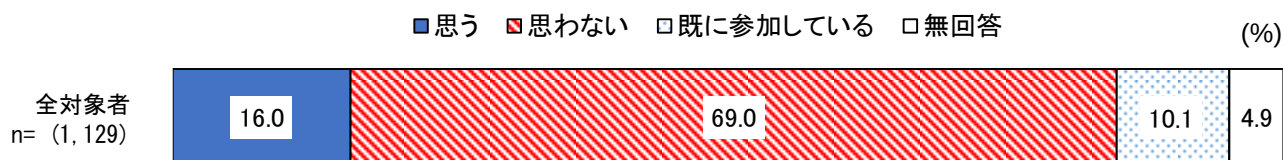


5 その他

新型コロナウイルス感染症をきっかけとした地域・市民活動等への参加意向

新型コロナウイルス感染症をきっかけとした地域・市民活動等への参加意向については、「参加したいと思う」が 16.0%、「参加したいと思わない」が 69.0%となっています。

なお、「既に参加している」と回答した人は 10.1%となっています。



<参加頻度について>

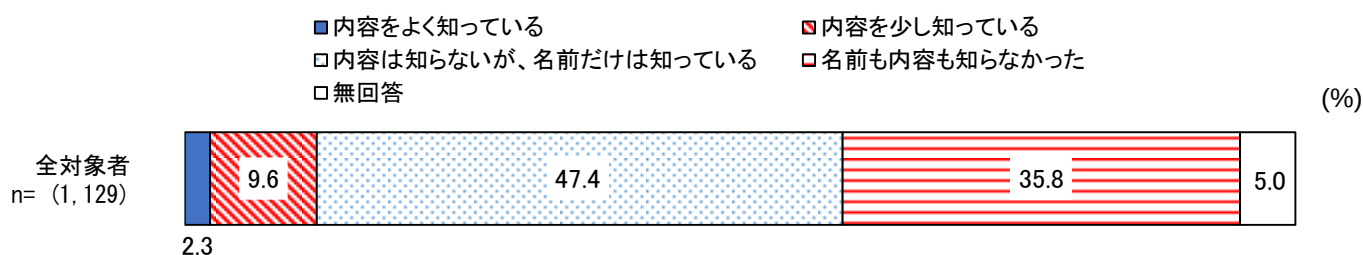
新型コロナウイルス感染症をきっかけに、どのくらいの頻度で地域・市民活動に参加したいと思うかについては、「月1～2回」が 11.0%、「月に3～4回」が 0.6%、「月に5回以上」が 0.0%となりました。

なお、「年に数回」と回答した人は 44.2%、「空いた時間に不定期参加」と回答した人は 43.1%となりました。



「藤沢市市民憲章」の周知状況

「藤沢市市民憲章」の周知状況については、「内容をよく知っている」が2.3%、「内容を少し知っている」が9.6%、「内容は知らないが、名前だけは知っている」が 47.4%、「名前も内容も知らなかった」が 35.8%となりました。



藤沢市
市民活動に関するアンケート調査
報告書（概要版）

発行日／令和 7 年 1 月

発 行／藤沢市市民自治部市民自治推進課

〒251－8601 神奈川県藤沢市朝日町1番地の1

TEL 0466－25－1111（代表）

FAX 0466－50－8407